

●木佐茂男(九州大学教授)



「日本とはどのような国かを知っていないと、自分も自治体も守ることはできない」

【プロフィール】

まさ・しげお 1950年島根県生まれ。78年、京都大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。北海道大学法学部教授を経て、2000年より九州大学大学院法学研究院教授。04年、弁護士登録。放送大学客員教授、中国人民大学憲政行政法治研究センター客員教授などを務める。専門分野は行政法、地方自治法、司法制度。主著に『自治体法務入門(第3版)』(ぎょうせい)、『テキストブック自治体法務』(ぎょうせい)など。

【お薦めの3冊】

- ① 『町長室日記—逢坂誠二の眼』 逢坂誠二／著(柏艚舎)
- ② 『ドイツ秘書教育の語るもの』 佐藤昭雄／著(近代文藝社)
- ③ 『武富士対山口組』 木村勝美／著(イーストプレス)

【推薦の言葉】

①『町長室日記—逢坂誠二の眼』

言わずと知れた前ニセ町長の現職時代のインターネット日記の抜粋。希有の人物による1400回を超す日々の記録は森羅万象に及ぶ。全日記の1%も収録されていないが、読者には、逢坂氏が、本当は言いたいけれどもまだ述べる事が出来ない本音の部分を探して欲しいと思う。1冊の本の中で「何が書かれていないか」を探るのは、その人そのものを裸にする作業でもある。

②『ドイツ秘書教育の語るもの』

職業人は、どの程度の専門的訓練を受けた後に現場に立つべきか、ということについて、やさしく述べた本。行き過ぎた専門職化はよくないが、日本の知的労働の生産性の低さを考えさせるものになっている。

③『武富士対山口組』

この本に出てくる全ての組織や人物をパソコンでもノートにでも書き出して、関連するものをつないでみて欲しい。日本(裏)社会のネットワークがいかに確立したものかがわかる。日本社会の実像を知るための本は、内部告発ものも含めて無数にある。いつかあなたの職場が裏社会に巻き込まれるかもしれない。しっかりと、日本とはどのような国かを知っていないと、自分も自治体も守ることはできない。知っているても守れないかも知れないが。